

# 会議録

平成 26 年 10 月 9 日(木) 場 所 3 階 第 5 研修室

会 議 名：第 4 回総務・経済常任委員会

出席委員：竹田委員長、新井田副委員長、福嶋委員、又地委員、佐藤委員、吉田委員  
平野委員、笠井委員、東出委員、岩館委員

欠席委員：なし

会議時間 午前 10 時 00 分～午後 13 時 07 分  
事務局 山 本、吉 田

---

## 開 会

### 1. 委員長挨拶

**竹田委員長** おはようございます。

ただいまから、第 4 回総務・経済常任委員会を開会いたします。

ただいまの出席委員は 10 名でございます。

よって、委員会条例第 14 条の規定による委員定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

ただちに本日の会議を開きます。

本日の会議次第は、別紙配付のとおりであります。

きょうは、午前中で終える予定でありますし、現地調査が主であります。

午後から議員会の行事等もありますので、議員各位の協力方、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、早速現地に入ったほうがいいですね。特に、現地に入る前に担当のほうで説明することがあれば受けまされども。なければ、現地で。

それでは、暫時、休憩をいたしまして、現地のほうへ行きたいと思ひます。

**休憩 午前 10 時 01 分**

**再開 午前 11 時 54 分**

## 2. 調査事項

### (1) 現地調査

<建設水道課>

・朝日団地建設工事

・南北線改修工事

<産業経済課>

・幸連牧野草地更新事業

<生涯学習課>

・ふるさとの森プール

・ふるさとの森スキー場工事

## ・中央公民館耐震工事

**竹田委員長** それでは、午後からの日程等もありますので、休憩を解いて会議を再開したいと思います。

現地調査につきましては、ほぼ予定通り済ませることができまして、本当にありがとうございます。

まず、1点ずつ皆さんのほうから気が付いた部分、また指摘等の事項等があれば、お聞かせ願いたいとこのように思います。

まず、一番最初に見た幸連牧野の草地造成。2か年の事業で行った事業でありますけれども、これについて何か感じた部分があれば。

又地委員。

**又地委員** 牛の頭数のことで、ちょっと聞きたいと思うのですが。

主に、木古内町と知内町の牛と聞いているのですが、木古内と知内とあそこを例えば使うとすれば、まずあそこの幸連の牧場でマックスが何頭なのかということと、それから知内と木古内と合わせてどのくらいの頭数があるのかと。

ということは、頭数のマックスが多ければ多いほど農協さんで持つ分、あるいは受益者負担分が軽くなっていくと思うのです。だから、その辺をちょっと聞いておきたいなど。

ことしは、154頭とだったかな、3頭だったかな。若干、149頭くらいの予定だったのかな。それが、5頭くらい多かったということなのだけれども。将来に向けて、マックスでどのくらいあそこでできるのかということも、ちょっと聞いておきたいなど思っているのです。

**竹田委員長** 副町長。

**大野副町長** 私もきょう現地に行きまして、農協の説明員のかたに尋ねたのです。そうしましたら、140頭が最初の目標で、ことしの入牧です。

「マックスで150までいきました」ということで、計画よりも何とか頭数が多いので、いわゆる負担の件です。受益者負担の件については、「少し、ことしは良い方向にいます」という返事はいただいております。

幸連牧野に何頭を遊牧できるかと言いますと、これは働いているかた、管理するほうのかたがいま2名の状態ですから、そこからするとおよそ150から160くらいなのだろうなというふうには思うのですが、ここは管理している農協さんのほうに確認をしながら、後ほど資料をお出ししたいというふうに思います。よろしく申し上げます。

**竹田委員長** 又地委員。

**又地委員** ことしのマックスはわかったのだけれども、あれだけの広さで145haだったかな、154だったかな、何か言っていたけれども。

問題は、今後のこともあるのですよね。だから、あれだけの広さで例えば木古内と知内と所有していて、「何頭以上はだめだ」というようなものも掴んでおかないとだめですよね。だって、前には木古内なり知内以外からも少し来てあったのですよね、確か。北斗のほうからも来てあったと。

これから今回は、国の助成なり個人負担なり、あるいは農協さん。知内と木古内という形で、持った事業だと。何年かするとまたあると思うのです。そうすると、最大何頭、

仮に 200 頭まで放牧できるとかということであれば、今度将来に向けて農協さん自体も少し考えてくれないとだめだと思うのです。

いま例えば、人数が足りないからとは言うものの、例えば 200 頭やったら例えば 3 人いるとか、必要なのだとかというものを農協さん自体が経営主体だから、そういうものをきちんと出してきてくれないと。「やあやあ」と、「木古内町さん、知内町さん、頼みます」と言われても、将来的には出してやれるかというのは責任持てない部分は私あると思うのです。だから、頭数が多いほど、経営そのものがたぶん楽になっていくのだろうと。その辺は、例えばいまは 2 人だけど 3 人にして合うか合わないかというのは、経営主体の農協さんが試算すればいいことですしね。その辺は少し、担当課のほうも農協さんに聞きながら、勉強しないとだめではないのかなとそういうふうに思っていますので。

**竹田委員長** 木村課長。

**木村産業経済課長** 預託稼働頭数なのですけれども、これはいままでの過去からの預託の頭数で言えば、多かった時で 200 頭前後でした。ですから、そのくらいは大丈夫なのかなというふうに思います。

それと、木古内町内の主要頭数なのですけれども、乳牛と肉牛合わせて 1,500 頭くらい使用しております。

知内町の頭数はわかりませんが、その辺も確認して、又地委員がおっしゃった今後、将来的なことも含めて少し検討していきたいと思います。

因みに、説明にあったとおり、平成 2 年に前回草地更新を行った後の 20 数年間ですので、当面は大丈夫だと思うのですけれども、おおよそ 8 年から 10 年である程度の手入れが必要だというふうに伺っておりますので、その辺も念頭に置きながら対応していきたいと思います。以上です。

**竹田委員長** ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** なければ、幸連牧野の草地更新についてはこれで終わります。

次に朝日団地の建設工事、これは竣工というかできあがったわけですが、これについて。

又地委員。

**又地委員** すごく居住性が良いように見てきましたし、あと羽目板もそれなりに使っているなどそんなふうに見てきました。

あと、問題なのは冬場の玄関側の雪をどうするのかという問題。病院の裏口ですし、当然病院の裏口のほうは除雪の関係。あるいは、いまの朝日団地 2 号棟のほうの玄関のほうの除雪。駐車場になっていきますので、そのあたりの雪をどっちに持って行くのかなというのがちょっと心配して見て来ました。

それと、いまの住宅が建った浜側。それなりの空き地・スペースがあるのですよね。あそこは、花畑だとかそんなものに使おうとするのか、あれはどうするのですか、あれだけのスペースを。その辺をちょっと聞いておきたいと思います。

**竹田委員長** 小池主幹。

**小池主幹** 駐車場のほうについては、1 号棟と同じに道路の除雪時に一緒に除雪してもらうというふうに考えております。

それと、浜側のほうについては、いま整地してある部分については、共用地ということで、花壇等はいま土を入れる考えはないので、冬期間は雪捨て場になるのかなというふうに。夏場については、いまのまま回りの人というか、町内会等で何かあった時に使ってもらったりということになると思います。

**竹田委員長** 福嶋委員。

**福嶋委員** 公募期間は終わったと思いますけれども、入居者の数8戸に対してどのくらいの応募者があったのか。

**竹田委員長** 小池主幹。

**小池主幹** 15日で締め切りました。それで、8戸のうち1戸については、環状線の地権者のかたにちょっとどうかということで、優先的ということ。7戸の入居ということで、そのうち応募があったのが13戸です、全部で。

それで、その中の詳しく調べましたら、入居基準に合っている。

すみません、ちょっと課長と替わります。

**竹田委員長** 若山課長。

**若山建設水道課長** すみません、入居のほうについて小池が申したとおり、13件の応募がありまして、いま応募者のその人達が、応募の基準を満たしているかどうかの審査をいましている最中で、そのあと審査を経て入居者が決まる。若しくは、同等の人達が7戸以上あれば、抽選を行っていくということ。いま進めております。

**竹田委員長** ほかに。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** ただ、現地を見てちょっと感じたのですけれども、自転車置き場。自転車を入れる入り口と反対側も窓、壁でなくて吹き抜けになっているのですよね。あれは冬になったら、逆に入り口だけはオープンでも、反対側はガラス戸でも付けたほうが良いような気がするのだけれども、その辺は何か設計上の風の通りだとか考えてのことなのかどうかという部分。だから、自転車置き場と言っても雨が両方から入るわけですから、何かその辺がちょっと心配なのと。

それから、風呂場に手すりが付いていない。現地でも指摘したけれども、それは何とかやはり考えてもらいたいです。

自転車置き場の関係は、どういうあれですか。

小池主幹。

**小池主幹** 自転車置き場については、デザイン的に空けただけなものですから、深く。屋根だけかかっていたらいいなど、ちょっとうちのほうで単純に考えていました。

それについては、今後というかどうしたらいいか検討して対処したいと思います。

**竹田委員長** 自転車置き場というのであれば、吹き抜けでどっちからも雨・雪が入るような形というのはどうなのかなという気がしますから。その辺は、デザイン的な部分でああいう構造になったということだけれども、その辺は内部でできるのであれば、片側だけふさいでやったほうが良いのかなという気がします。

若山課長。

**若山建設水道課長** 一応その横に物置も設置しておりますので、大事なものとか雨・風の問題があるようなものは物置のほうに入れていただいて、夏場の自転車置き場ということ

で、そこは出入りが楽な方向で考えたいと思っています。

**竹田委員長** 出入りは楽なのです、オープンだから。反対側も空いているでしょう、窓スペースの部分で。だから、雨・風が両方からも、せっかく自転車置き場で屋根だけという考えだかもわからないけれども、どうなのかなと。せっかくああいう立派な施設ができてと思うものですから。だから、小池主幹が言ったように、改善できる部分があれば今後検討してください。

**竹田委員長** 次、いいですか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** 次、南北線の改修工事の関係ですけれども、ほぼだいぶ外壁も見えてきましたので。まだちょっと駅のイメージが出ないのですけれども、皆さんのほうで気の付いた部分はありませんか。

東出委員。

**東出委員** 進捗率をちょっと聞いてないからわからないのだけれども、ただこの次もまた見る機会を私達に与えていただければ。きょうの部分ではわかりません。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** いいですか。

(「はい」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** 次にそうすれば、教育委員会の関係です。

プール、スキー場、耐震工事と一括で皆さんのほうからごさいませんか。

又地委員。

**又地委員** まず、ふるさとの森プール。外構の部分で、少し注文を付けてあったと思うのですけれども、いま素掘り側溝を掘って、たぶん一冬見るのかなとそんなふうにも思っていますので、その辺の見解を。

それと、配水管がところどころ出ています。いま雪が降られると、不心得のものも出てきて、その上に車を止めるとかあるので、あれをドーナツで囲って、そして多少車が上がっても、あるいは人間が上がっても沈まないような方法をとっておいたほうが。もうこの宅地造成だとか家を建ててもそうなのだけれども、配水のこれは水道課のほうでよくわかりますよね。立ち上がりの回りにドーナツを置いて、中をコンクリートでちょっと埋めてやれば多少の力がかかっても沈んでいかない。

それから、スキー場なのですけれども、私のイメージからいくと滑れる面積が随分狭くなったなとそんなふう感じておりました。あと、もしできれば、頂上に間伐材を利用してもいいので、戸を付けるとかというのではなくして、上に頂上に片流れの屋根のロッジみたいな戸を付けない。滑ってくる側は戸はいらないと思うので、何かそういうものができれば子ども達が喜ぶのではないかなとそんなふうにも思っ見て来ました。それは、検討できるかどうか返事をください。

それと、中央公民館のほうの耐震なのですけれども、鉄骨をたぶん組んでということになるのでしょうけれども、ただ講堂の中の窓。窓をずっと見て、長いこと見ていて、中で暖房がかかると冬にあそこに水滴が、あその窓が癌なのです。そして、下にだらだら流れて行って、収納庫ありますよね。あの中が腐っているのですよね。だから、現場で聞きましたら、やるとすれば全部ペアガラスにすると。全部取ってしまわないとだめだという

ような見解なのだけれども、あれはあれにして、中に内側にもう一つやったらどんなものなのかなど。あれはたぶん、あのままならまた汗をかいて、またいつも水が棚みたいになっているところを流れてくるのですよね。その辺の検討をしてもらえれば、大変ありがたいなとそんなふうにも思っているのだけれども、ちょっと見解を伺っておきます。

**竹田委員長** 若山課長。

**若山建設水道課長** プールの外構につきましては、このあと発注予定としておりますので、その中でいまおっしゃられたような配水ですとか、現配水の補強を考えていきたいと思えます。

スキー場につきましては、きょうもご覧になったとおり、以前からあまり滑れない部分についての場所に、リフトを今回設置させていただくことにしましたので、見た目はちょっと狭く感じるかもしれませんが、実質のゲレンデはそんなに変更はないかなというふうにこちらでは考えておりました。

あと、頂上に間伐材で休憩小屋ということだと思うのですが、現段階のリフトとあと造成の費用がだいたい予算通り使っている中で、ちょっと今回は厳しいのかなど、一応検討はしますけれども、というところです。

公民館の窓は、いいですか。

**竹田委員長** 小池主幹。

**小池主幹** 講堂の窓についてはペアガラス、それから内側に断熱サッシ等を入れることは可能なものですから、予算の見合いを考えながら検討をします。

内側に付けるとしたら、今回の工事ではなくて、次年度の予算でも設置は可能なものですから、そういうふうに関今年できなかつたら次年度の予算で付けるようなことも検討していきたいと思っています。

**竹田委員長** いま、主幹の最初の説明からすれば、予算がちょっと多少だぶついているというふうにも聞こえるのだけれども、そうでもないのですか。余裕があるというふうに関聞こえるのだけれども。

小池主幹。

**小池主幹** 余裕はないのです。次年度以降に考えたいと思えます。

**竹田委員長** ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** その他の部分で、何か。

まちづくり新幹線課の前に、ちょっと南北線の時に若山課長に尋ねたのですが、電柱の地中化の施設。あれがかなり大きい、歩道にコンクリの柵というか、あれができていますよね。そして、いまの車道からはみ出ている。両側がはみ出ているのですよね。そうすれば、それだけ狭くなるという。何かそして縁石がボックスあるところ、鉤の手が付いているああいう縁石にするのかと思うのと、それとやはり駅前商店街の人に聞いたら、あのボックスがいまのベースでなくて、「それから140くらい、この机くらいまで、高い施設ができるのだ」というそういう説明。「いま施工している業者のかたから聞いた」と言うのですが、すごく商店街の人が心配しているのは、冬の除雪のことを心配しているのです。その施設のほかに、街路灯・街路樹どのくらいのスパンで例えばできて、いままででも結構冬になれば雪の山だったやつが、今度そういう施設があるために、歩道側に押

せないだろうと。そうすれば、車道にどうしても雪を寄せるしかないとなれば、いま以上に狭くなったそういう施設があつてとなれば、「冬のことを考えれば逆に不便になるね」というそういう声が聞こえるのだけれども。その辺は、行政側として道の施工かもわからないのですが、商店街等への説明だとか、「何も役場で来て説明はない」という話も聞くのだけれども、その辺ははたしてどうなのかと部分は。あとでできたはいい、ブーブートラブルの要因になれば困るなというようなことで、いま施工中ですけれども、その辺行政側の考えを含めて、どういうふうにする考えなのかどうか。

若山課長。

**若山建設水道課長** まず、いま部分的に何箇所か大きく車道・歩道にまたがって、立て坑を掘って作業をしていますけれども、これについては仮設の鉄骨を組んで、大きく掘って、真ん中にハンドホールというものができます。それは地下に埋まるものなのですけれども、将来的にはそれは歩道の下に埋まるという形です。

いま縁石はたぶん委員長がおっしゃっているのは、仮の縁石がもしかしたら変形に直線でないような形があるかもしれませんけれども、道路本体の工事は来年度の予定なものですから、いまは地下の部分の工事をやっていて、その都度仮舗装ですとか、仮の縁石とかはあるかもしれませんけれども、最終形ではないというふうに考えてもらいたいと思います。

それと、もし何か地上部にできるものも確かにあるのですけれども、それは簡易な分電盤みたいな電気埋設の。ですから、大きなものが地上に出っ張るというものではなくて、ところどころに先ほどおっしゃっていた、高さはちょっと1 mものか1 m 40 c mかわからないのですけれども、そういうものができるのは確かにできます。

そういうのも含めて、あるいは街路樹、それから個々のかたの取付道路です。そういったものも含めて、地元のほうからも要望も来ていまして、北海道のほうとも相談しながら、説明に歩く、あるいは集めて説明会を開くというようなことをいま検討しているところです。

**竹田委員長** それは、いつ頃になりそうですか。

若山課長。

**若山建設水道課長** まちづくり新幹線課の課長と相談しているところなのです、いま。時期はまだいま、ここでいつとは言えないのですけれども。なるべく早めにとは思っております。

**竹田委員長** 今月中にやるということでもいいのですね。

若山課長。

**若山建設水道課長** 検討します。

**竹田委員長** それでは、その他のほうでまちづくり新幹線課のほうから資料が出ていますので。

暫時、休憩をしたいと思います。

**休憩** 午後 12 時 20 分

**再開** 午後 12 時 21 分

#### 4. その他

**竹田委員長** それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

それでは、その他でまちづくり新幹線課のほうから2点資料が出ております。

これのまず説明を求めます。

中尾室長。

**中尾新幹線振興室長** それでは、まちづくり新幹線課から2点ご報告がございます。

お手元の資料でございますけれども、1点目、観光交流センターのセンター長候補の関係でございます。

7月から8月にかけてまして、全国公募いたしまして、全部で43名の応募がございました。

その中から、選考作業を進めまして、函館市近郊に在住しておられます60代前半の男性のかたの採用をこの度決定をしたところでございます。

ただ、ご本人が、現在一般企業に在職中ということでございますので、採用までは氏名等の公表は行わないでいただきたいという申し出でございますので、名前の発表は控えさせていただきます。

このかたは、流通交流分野におきまして非常に豊富な実績をお持ちのかたということもございまして、木古内の商工業者のかたとも一定のつながりがあるということもございまして、今後センターの主に物販分野におきまして、非常に活躍が期待されるわけでございます。

居住地が函館市近郊ということもございまして、地域おこし協力隊という制度がちょっと使えないということもございまして、町の単費でという形になりますけれども、今後1月中旬を目途に町の非常勤職員として採用を行いまして、センターのまずは開業準備にあたっていただくということになります。

2点目が、新幹線開業記念行事でございます。

10月下旬に、資料1、後ほど説明いたしますが、によりまして、町内関係団体によります開業記念実行委員会を設立したいというふうに思っております。

函館などでも既に開業記念事業がはじまっておりますので、木古内も本格的にオール木古内としまして取り組んでいきたいということでございまして、委員会設立後、構成団体からの意見聴取ですとか、やはりこの事業に関しては若いかたの意見を多く取り入れたいという観点から、若年者とのワークショップなどを開きまして、具体的な事業のイメージを固め、本格的な来年度予算の中で反映をさせていきたいということでございます。

2枚目以降に、実行委員会の規約の(案)がございまして、ポイントだけご説明いたしますけれども、第2条の目的でございます。

木古内駅の開業を祝うということ。そして、駅を拠点としました渡島西部檜山南部広域の地域の魅力やおもてなしの心を全国に発信するというところで、開業気運の醸成と地域の活性化というものを指すものでございます。

委員会の設置期間、第3条でございますけれども設立の日、10月下旬から28年度末。開業の翌年の末までというふうに考えてございます。

第4条、所掌事項でございますけれども、大きく三つございまして、(1)木古内駅プレ開業記念事業ということでございます。このプレというのは、前あるいは先行といった意味がございまして、事業の本格実施に先立ち、取り組みを行う取り組みということでござ



います。26年度は、試験的にちょっとした事業をやるということでございます。27年度から28年度につきましては、本格的に開業記念事業ということで行ってまいります。(3)はその他でございます。

第5条の組織でございますけれども、別表に掲げる委員ということで、もう二つめくっていただきたいのですが、一番最後の紙でございます。

これが、実行委員会の委員名簿(案)でございます。各団体との調整は終わっておりませんので、あくまで役場としての案でございます。

全部で32団体でございます、これは基本的に昭和63年の津軽海峡線開業時の実行委員会に構成メンバーとしてなっていた団体を、若干の改廃を加えたものでございます。

主な改廃点としましては、③番目、北海道新幹線建設促進木古内町期成会を加えたりですとか、あるいは25番、鉄道運輸機構に入っていたり。あるいは32番、9町の広域性ということもございまして、新幹線木古内駅活用推進協議会を加えさせていただいたところなどが、昭和63年度より若干替わっているところでございます。

加えて、オブザーバーとしまして一番下でございますが、渡島・檜山両振興局にも加わっていただきたいということでございます。

今後、各機関と調整をした上で、10月下旬から本格的に官民一体となったオール一丸となった体制で、開業記念事業の検討に入りたいとこのように考えてございます。

以上でございます。

**竹田委員長** ただいま、2点について説明をいただきました。

皆さんから。又地委員。

**又地委員** 新幹線開業記念行事についての部分で、いま室長が一番最後ですよ。事業実行委員会の委員名簿だということなのですよ。これは、案でしょう。案は案でいいです。

そうしたら、三行目の「今後、構成団体からの意見聴取、若年者とのワークショップ」と若年者をすごく強調しているのですよね。これはおもしろくないですよ。というのは、わざわざここに「若年者」とかとしなくてもいいのではないですか、これ。そうしたら、こういうふうにしてしまうと、年取った人方は協力しないですよ、これ。だって、名簿を見たら結構年寄りもいるのですよ、これ。何かちょっとあれですね。私とすれば、ちょっとアレルギーがあります、ここ。

それと、これは今度副町長に聞くのだけれども、こういう中に例えば町の中には、社会功労者ですとか自治功労者ですとかたくさんいるのですよね。そして、元気な人もいます。それから、役場の退職者。元気な人方がたくさんいます。中で、結構不満があるのですよ。だって、私なぜ「若年者との」というところにアレルギーが出るかというと、町内会活動に若い人が出てこないのです。本当にそうです。この間、道南の社会福祉町内会の会長さん方が200人くらい集まって、各自自治体の町内会の実態の話し合いがありました。そうしたら、どこの町も同じなのです。若い人が町内会活動に参加してくれないと。そういう中で、私はやはり各25町内会あるのです。中から引っ張り出すような、ある意味では実行委員会の人選をしたほうがいいのではないかとそんなふうにも思っているのです。これ「若年者との」とあるけれども、これ見てみてください。年寄りがたくさんいるのです、これ。若年者だけではないです。まして、高齢化率が42%で、高齢者の力をなぜもっと借りないのか。42%ですよ。2,000人以上は高齢者なのです。その人方のパワーをなぜ借

りようとししないのか。若年者もいいですよ、「だめだ」とは言っていない。その辺ちょっと見直しをかけて、町自体が取り組まないとだめではないですか。5,000人と思ったら2,000人以上ですよ。その人方の力をなぜ借りないのか。若い人は発想力もあっていいかもわかりません。だけれども、歴史とか文化とかそういうものも年取った人方は知っているのですよね。そういう中では、もっと利用すべきだと思います。ちょっと見解を聞いておきます。

**竹田委員長** 中尾室長。

**中尾新幹線振興室長** 又地委員からのご指摘でございますが、表現方法として若年者に限定をしているような印象を持たれたとすれば、お詫びを申し上げたいと思いますが、決してご高齢のかたのご参画を否定しているものではもちろんございませんで、実際この実行委員会の中には、老人クラブ連合会のかたにも団体として入ってございますし、加えて実際この団体の主立った幹部の方々。おそらく、この実行委員会にご参画いただくかたは、相当ご高齢のかたが入ってこられるだろうというふうには考えてございます。

もちろん、この実行委員会が基本となって議論をしていきますので、その中で様々な町民のあらゆる層の声を聞き入れていきたいというところもございませけれども、なるべく新幹線開業、長く将来にわたって続く事業でもございませるので、やはり若い人に希望を持っていただきたい、関心を持っていただきたいという視点のほうから、若年者もこれとはまた別に、様々な希望されるかたの声も取り入れるために、このような形をやっていきたいというのが趣旨でございます。

ただ、ここで「若年者」という限定を付けるのが、非常にご不快の念を抱かれるのであれば、これに限定をしない、ワークショップという形で進めるのも検討したいというふうに思っております。以上でございます。

**竹田委員長** 又地委員。

**又地委員** いま、老人クラブ連合会の会長の二戸さんも入っています。わかります、それは。わかるけれども、そうしたら二戸さんが老人クラブ連合会の会長をやって、各下部組織、たくさんあります。例えば、うちであれば港寿会、老栄会とかあります。そこまでそうしたら、二戸さんに相談していろいろ下げるのですか。それはないでしょう、そういうことは。そこまでできるのですか。あなたがいま、「二戸さんが老人クラブ連合会の会長が入っている」と。会長がいろいろ発言します、この実行委員会に入って。そうしたら、各町内会の老人クラブを招集して、末端の。招集していろいろ意見を聞いた中で、二戸さんが代表としてこの実行委員会に意見を申すというふうなスタイルはとれないのですね、これ。とれるのですか。だから、それはいいですよ。それはなるほど、載っていますよ。漁業協同組合、三上珠樹専務理事です。これは、表面は「専務理事も入れておけばいい」という程度のものではないのですかこれ。例えば、上磯郡の組合の専務理事だと、三上さんは。そうしたら、知内の漁師さん、木古内の漁師さん、広く意見を聴取するのだから。その人方に、漁師の人方に集まってもらって、「どういう考えがあるか、どういうアイディアを持っているか」ということを下げて、そして意見を集約するのですか。これからいったら、例えば商工会長だって、例えば商工会に諮って、北島さんが諮って、可能かもわからないですよね、商工会は集まると言えば簡単に集まるから。だから、その辺がどうなのかと。例えば、木古内建築協会、会長が川瀬さんです。はたして会員を集めて、いろいろア

アイデアを出してもらって、そしてそれをこの実行委員会に上げてもらうという方法が採れるかどうか。そこまで考えているのですか。

**竹田委員長** 中尾室長。

**中尾新幹線振興室長** この開業記念事業の実行にあたりましては、できるだけ多くの町の方々の声を取り入れて進めていきたいというのが基本でございます。

しかしながら、ここにごじます全ての団体それぞれに私のほうから出向いて、お集まりをいただいて、いろいろ議論をしていくと。これは、正直現実的ではございません。

したがって、第1回の実行委員会を開催いたしました際に、町としてのもう少し細かな考え方などをご説明をした上で、1か月程度の時間をおきまして、各団体としてどのような事業を望むのかということをお聞きをしたいというふうに思っております。

それを踏まえて、その各団体の中でどのような集約・ご提言をされるのかは、各団体にお任せをしたいというふうに思っておりますし、その中で各団体から「きちんと役場が入って、場を設けてほしい」というのであれば、それは可能な限り対応していきたいと思っております。

**竹田委員長** 又地委員。

**又地委員** これはあれでないのですか、室長。32人のオブザーバーで2人、ただこの人方だけを集めて、この人方個人の知恵を借りるということではないのですか。それでないと大変ですよ、その程度でない。

平野君、例えばあなたはPTAの連合会の会長です。あなたも委員です。そうしたら、PTAの連合会の会長がPTAの会員末端まで、末端の意見を集約して、PTAの連合会の会長として代表して集約したものを、この実行委員会に具申するというスタイルでなかったら広く町民にならないでしょう。何か絵に描いた餅で、「この人方に集まってもらって、そして話を聞けばいいのだ」という程度により受け取れないです。やるのなら、例えば「各団体に1回開いてください」と、「会員を集めていろいろアイデアを出してください」と、「それを集約してもって来てください」と言うのであればわかります。そこまでいくかどうかですよ、問題は。

(「関連」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** 東出委員。

**東出委員** これ、きょうこの説明の中で取り下げなさい。ということは、いまいろいろと意見を言われたけれども、私も一・二ちょっとあるのです。ということは、いま国会の中でもいろいろと女性の人を登用しているでしょう。たった32人の中に、女性の声2人より載っていないのですよ。そして、この事業内容を見るとソフト事業なのです。そうすると、女性の立場からの意見をもう少し入れて聞いてあげないと、「何だ」となる。

それと、「今回は取り下げなさい」と言うのは、やはりもう1回あなた達、何かのものを前のものを参考にして出してきたのでしょうか。本当に芯から考えて、あれしたものなのかなというので、私ちょっと疑問があるのです。だから、私が言うようにまず、女性を登用する考えも持ってもらいたいし、いろんな代表者が来ているのだけれども、いま又地委員が言うように、本当にその会の代表として臨んで来る人達なのか。ただお借りしますという部分なのかわからないです。

それと、この32人中、全体会議で32人を招集するのか、何部会かに分けるのか。そ

の辺もまだはっきりしないので、それを含めていま答弁願えますか。

**竹田委員長** 副町長。

**大野副町長** ただいまお二人のかたからご質問・ご意見をいただきました。

それでまず、実行委員会の構成につきましては、昭和 63 年の津軽海峡線の開通の際に、「木古内の町全体を挙げて、開業ムードを盛り上げていこう」ということで作った団体をベースにしております。

そこから替えたのが、先ほども説明しました期成会ですとか、活用推進協議会、3 番、3 2 番です。

女性の声というのは、町内において女性団体がいくつかあるのですけれども、その中の総括的な役割を担っているのが女性団体協議会ではなくて、ここに書いております男女共同参画プラン推進協議会。この中には、全ての女性団体が網羅されております。そこで、その会議を開いて、そこにまずこういう 1 年半後のオープンに向けて事業をやっていく。やっていく柱については、何も出さないわけにはいきませんから、それは「こんな考えは持っているのですよ」というのは出します。

そのほかに、各団体で「こういう事業をやったらどうだろう」というのをまた議論していただいて、それが先ほど室長が説明した 1 か月程度はそういう時間を取りたいと。時間を取った上で、協議をいただいた上で、また参画をしてもらいたいと。

団体によっては、会長に一任している団体もあろうかと思えます。また、役員会を開く団体もあるでしょうし、全体会を開くということもあるのかもしれませんが。その中で、町からの説明が求められれば我々行きますので、その中で何とか町内の全ての方々が開業に対して、新幹線のオープンに対して、参画をするというような形を作っていくというように思いで提案をしておりますので。

そしていま、12 月には試運転もはじまるということで、そこに向けてのイベントも考えていきたかったものですから、10 月中には立ち上げをしたいということで、ご理解をいただければというふうに思います。

**竹田委員長** 又地委員。

**又地委員** そうしたら、例えば実行委員会は作るけれども、「こういうことをやろう、ああいうことをやる」というのは、行政サイドに主導して行って、皆さんに了解を得るくらいでしょう、これ。例えば、工藤嗣美さんが連合町内会の会長です。例えば、連合町内会の工藤嗣美さんが 25 町内会の町内会長を集めて、どうのこうのということにならないでしょう。かといって、これだけの団体がいる中で、何かを出してきたとします。取り組めないでしょう。例えば、32 団体で 32 出てきたらどうするのですか、これ。それは、取捨選択は行政のほうでするのかわからないけれども、私はそうでないのだと思って。「実行委員会を立ち上げます。規約はこうです。あとは行政が主導でやっていきますから。」という程度でないのですか。その辺何もあれでしょう、委員会なのだから、「そうです」と言うのであればそれでいいのですよ何も。何も異論はないです。だって、大変ですよこれ、下まで下げると。そして、アイデアなりあれを上げてもらおうと。取り返すつかないでしょうこれ、収集できませんよこれ。もししたとすればですよ。

**竹田委員長** 副町長。

**大野副町長** 開業時のイベントメニューについては、行政側から提示するということ

はいまは考えておりません。

予算枠は、この程度の予算枠でやりたいということはお示ししたいというふうに思っておりますが、その中でいろんな意見を各団体からいただく中で、詳細を詰めて行きたい。詰めて行く作業を幹事会という部会を作りますので、その幹事会の中で協議をして行くというような手順に、そこで取捨選択です。

各団体については、いろんな意見が出てくるかと思えます。そのほかに、若い方の発想というの中には必要だというふうに思えますので、団体のないところ。具体的には、中学生とかそういう生徒会何かにもちょっと声をかけて、「どんな発想を持っていますか」というようなこともやってみたいなというふうに思っているのです。

ですから、行政のほうで個々にこういうメニューというところまでは、いまは出せる状況でもないですし、それは各団体からの意見をいただいて決めて行きたいというふうに思っております。

過去にやったということで、63年の実績は出します。こういうメニューでやったというのは。

**竹田委員長** 平野委員。

**平野委員** 皆さん、何を持ってこの実行委員会の幅広く町民から意見を聞くということに疑問があるのかちょっと私にはわかりませんが。町側としては当然町民からの意見を聞いて、町全体でこれをやるという趣旨からは、当然このような団体の人達に出てもらうということは当たり前のお話であって、ましてやその会によって、当然例えば私がPTAの全ての会員を集めて会議をやるというのは、もちろん難しいことでもあります。

ただ、団体によっては当然そういう会を開くこともありますし、あとはやはり会長にこういうのをお任せするという、会員さんの一任でいいのではないのかなと単純に思います。

ただ、先ほど又地委員が言ったように、「高齢者に頼らなければならない」というのは確かに一理あると思います。

ただ私は逆に、課題でもあります町内会に若い人が出てこない。この中にも若年層、もっともっと若い人に出て来てほしいという観点から付けたと思うのですが、若年層からの話を。やはりこの実行委員の中に、どういうカテゴリー、どういう団体があるのかとちょっと難しい部分ではありますけれども、先ほど言われた女性だったり、若い人の名簿がもう少しあってもいいのかなと個人的には思います。以上です。

**竹田委員長** 東出委員。

**東出委員** 私先ほど触れたのだけれども、やはりいま本当に女性2名だけなのです。だから、女性の中の総括したものの中には、男女参画プランのところでこの人の名前が載っているけれども、やはりそれらの女性の声を聞くという立場にあるのかなのか。

だから、そこが一本で事を進めていくということ自体も私はまだ問題もあると思いますし、女性2人だけだったらこの会議に出たからってなかなか話す機会はないですよ。まして、ここにも1人名前があるけれども、この人は転勤で来ている転勤族です。町のことなんていま盛りいま覚えようと思って真剣になって町を回っているのですよ。そういう人達にいまこの部分を聞いても無理なのです。だから、そんなことを考えれば、私はもっともっと柔軟な男と違った発想を持っているのも女性ですし、そういうような部分では全然頭一本のプランから1人あればいいようなものの言い方をするから、私はいまここで再度聞

くのだけれども。

それと、やはりこういう大きな組織になってしまうと、全員出席すると31人ですよ。ダブっている人が1番と32番に入っているからあれなのだけれども。30人もの人が一気に一堂に揃ってやはり会議をするという、それ相当なあれなのだけれども。それで、検討課題だとかいろんな目的達成のために、組織があまりにも大きすぎて、私は分科会的なことも考えているのかなという部分を何も聞いていないです。その辺、私も後ろ向きな発言をしているわけではないのですよ。やるからには大勢の人がこの会議に出て来てもらって、活発な議論をして、良い方向で開業に向けて行きたいと思う反面、私はこういうことで話しているの、その辺十分検討し、女性を登用まだ増やすのか増やさないのか、その辺どうなのですか。そして、分科会にするのですか。

(「関連」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** 佐藤委員。

**佐藤委員** 我が町とするとこの開業記念というのは、一生に一回という感じがするのですが、これは一大事業であろうというふうに私は思います。

そんな観点から私は、この進め方についてはこれはこれとしながらも良いのではないのかなというふうに感じておりますが、やはりもしこれからこの事業を進めるにあたって、いままで町政懇談会というのが開かれておったのですが、町政懇談会を開催してこの関係で広く意見を聞く必要もあろうかなというふうに思うわけですが、今後この関係についてどうお考えあるかお伺いしたいと思います。

**竹田委員長** 副町長。

**大野副町長** まず、女性の声の関係ですけれども、老人クラブ町内会が連合会があるように、女性団体の連合会の長がと言いますか、連合体が男女共同参画プラン推進協議会なのです。

ですから、木古内女性会ですとか、更生保護女性会ですとか、そういう方々がメンバーに入っておりますので、その中で議論をしていただくことによって、声というのは届くかと思えます。

各団体の中には、それぞれ女性も参画をしておりますが、会長ということになるとそこに名前がないだけでして、女性は参加しておりますので、ぜひそういった声を出していただけるように、まずこの会議を立ち上げる時にそういうお願いはしていきたいというふうに思っております。

特に経済団体におかれましては、女性部という形でそういった組織ができておりますので、女性の声を十分に反映していただくようにということで進めたいというふうに思います。

個別団体ということになると、いま言いましたように、木古内女性会ですとか更生保護女性会とかはありますが、そこを集約する形で共同プラン推進協ということで入れましたので、そういう理解をしていただければというふうに思います。

また、全体会で話をして、イベント等についての提案意見を求めたあとに、幹事会ということでこれは少人数で絞り込みの作業を行いますので、分科会ということではなくて幹事会というのがこの規約の中には入っております。その幹事会で叩いていくというような考え方をしております。

町政懇談会、住民のかたの個別・個々の声を拾い上げるということが大事だというふうには、確かにご指摘のとおりかと思えます。

ところが、そこを進めていくには時間もかかりますし、まとめる作業もまたかかっていくということで、そこの部分をこういった団体の皆さんが、吸い上げていただければありがたいなというふうには思っているのですけれども、足りないということであれば検討はしなければなりませんけれども、いま進めるスケジュール・作業の予定としては、懇談会ということは考えていないというのが事実でございます。

**竹田委員長** 又地委員。

**又地委員** 別に私は「反対だ」ということを言っているわけではないのですよ。委員の名簿を見ると蒼々たるメンバーですよ。メンバーなのだけれども、この人方が例えば委員になって、この人方だけの意見を聞くというところで止まるのですよ、最終的には。私、しつこいようだけれども。この人方が下部まで、自分の団体の下部まで広げて行って、下部の意見も吸い上げるというところまでいくのですか。いかないのですよ、これ。そこを知りたいと言っているのです。これ大変ですよ、だけれども。どこまでやるのかというのは。だから、60何年のことを。だって、その当時だって、63年ということはトンネル開通です。その時だって、こういうメンバーがいました。だけれども、この人方だけです、ほとんど集まってあれしたのは。下部なんて何もないのだから。だからはたして、下部まで下げて行って、そして意見を集約して、そして上げてこれるかというのはできないと思っているのです、私は。63年の津軽海峡線、トンネル開通の時だってそうなのですから。だからそこなのです、どうするのと。何も私は実行委員会は委員会でいいのですよ。反対ではないのです。どこまでやるのだと言うのです、下のほうの意見を集約させるために、この人方が自分方の帰って、あるわけですこの人方には。組合員なり団体なり、その人方まで集めて一回意見を集約したものを、この実行委員会に持ってくるのですかと言うのです。そこを知りたいのです、私は。

**竹田委員長** 副町長。

**大野副町長** 実行委員会を結成する際には、任意でお集まりをいただくといえますか、代表のかたにご案内をして、代表のかたが出ていただく。その時に、町としてはいろんな声を集約したいということでご説明申し上げ、団体の中での議論をお願いしたいということは説明をします。

ただそこで、団体にあっては会長がその権限をできるという判断をされれば、会長の声だけが届くということもあるかとは思います。

ただ、町としては、住民の皆さんの意見をなるべく多く集めたいということで説明をしますので、そこのところは任意でお集まりいただきますけれども、お願いはしていきたいと。なるべく会の中で議論をしていただけるように、お願いをしていきたいというふうには思っております。

**竹田委員長** あと1点、いま副町長から説明を受けたのですけれども、そうしたら団体の例えば会長なり代表に集まってもらって、各組織でこの実行委員をまた出してもらおうという形なのかどうなのか。何かそういうふうにもちょっと聞こえるのだけれども。

それともう1点、東出委員が言っていた女性団体。確かに、プラン協が女性団体を包含しているのだけれども、実態はどうなのかという部分をきちんと行政側で確認をしないと。

なかなか老人クラブだとか連合会の部分とまた違うのです、この団体は。それぞれ単独団体です。木古内女性会、木古内更生保護、JA女性部、それぞれ独立した団体だから、どうせするのだったらもう少し団体を増やして、プラン協はプラン協、女性会、更生保護、JA女性部と。そうすれば、女性の顔ぶれももう少し賑やかになるのかなと。それぞれ単独した団体だから、プラン協がそれをまとめるといういまそういう形になっていないと思うのですよね。その辺を見極めて、この実行委員会の団体を選考する時に、一つ十分その辺を見極めて進めていただきたいと思います。

副町長。

**大野副町長** ただいまご質問があり、またご意見をいただきました。

プラン協のほうの女性の団体につきましては、プラン協とも相談をしながら、より多くのかたが参加できるようなそういう方向を会長とも話をしてまいりたいというふうに思っております。

それと、実行委員会にご案内するのはまず会長です。そのあと、会の中でこの人をこの実行委員として出したいという報告といいますか、変更があればそこは柔軟にお受けしたいという考え方ではおります。

**竹田委員長** ほかに。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** この実行委員会は10月中に立ち上げをするということですから、もう具体的に動いてきますね。

それと、きょうの議題にはないけれども、議会も11月に行くアル・ケッチャーノの部分。公募を前回の委員会の中で急ぐというようなことで、進めたその経過というのをもしわかれれば。

中尾室長。

**中尾新幹線振興室長** 観光交流センターの飲食施設についてでございますが、現在こちらの施設にご協力をいただけるということで承っております山形県鶴岡市のアル・ケッチャーノのほうと、これから事業者を公募するにあたっての最終的な条件面というのを詰めを行っているところでございます。

それが取れ次第、皆様へのご報告を経た上で、公募を進めたいと思っておりますので、もう若干のご猶予をいただきたいというところでございます。

**竹田委員長** 副町長。

**大野副町長** 少し時間はかかっておりますが、難航をしているということではありません。

シェフが国内にいないものですから、ちょっとコンタクトが取れない状況でして、戻り次第整理できるという条件になっていますので、それで少し時間をいただければというふうに思っております。

**竹田委員長** ちょっとその関係、どうもストーンといかない部分があるのですよね。公募は公募で進めることはできないのですか。例えば、アル・ケッチャーノのシェフのあれを聞かないと公募できないというものではないでしょうか。公募は公募でいいわけですから、あとは応募した決まった飲食とアル・ケッチャーノの関係しか出てこないのではないのですか。何かその辺が、アル・ケッチャーノの鶴岡のあれを聞かないと公募できないというのは、何かちょっと筋違いのような気がするのだけれども、その辺はどうなのですか。



中尾室長。

**中尾新幹線振興室長** 今回の公募の形式でございますが、「アル・ケッチャーノのご協力を得た上で、飲食施設を運営してくれるかたはいらっしゃいませんか」という形の公募をしようというふうに思っております。

それにあたっては、アル・ケッチャーノ側でこのような表現、このような文言で公募をしていただくということの内諾というのですか、了解を得た上で進めませんと進めないという状況でございます、したがって最終的な詰めをいまやっているということでございます。

**竹田委員長** そんなこと最初からわかっていることではないのですか。例えば、これこれは。

暫時、休憩をいたします。

**休憩 午後 1 時 01 分**

**再開 午後 1 時 07 分**

**竹田委員長** それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

ほかにございませんか。

(「なし」と呼ぶ声あり)

**竹田委員長** なければ、以上で第4回総務・経済常任委員会を終えたいと思います。

どうもお疲れ様でした。

説明員：大野副町長、野村教育長、佐藤生涯学習課長、渋谷主幹、西山主査、松本主任  
木村産業経済課長、羽澤主査、吉田主事、村上主事、若山建設水道課長  
小池主幹、木本主査、小西主任、堂守技師、福田まちづくり新幹線課長  
中尾新幹線振興室長、中山主査

傍 聴：なし

報 道：道新 菊池支局員

総務・経済常任委員会

委員長 竹 田 努